学校だより　5月

令和３年４月３０日　　横浜市立芹が谷南小学校

本との出会いで広がる世界～読書のすすめ～

副校長　柴　　諭

４月 23 日は「子ども読書の日」、そして４月 23 日から５月 12 日にかけては「こどもの読書週間」とされています。どちらも、子どもたちと本との出会いのきっかけとなっており、図書館や書店などでは様々な企画が実施されています。

子どもたちにとって読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上でとても大切なこととされています。様々な場面での登場人物の行動や言葉に共感したり、お話の続きを自分なりに考えたり、新しい言葉や表現と出会ったりすることができる読書の意義は、本当に大きなものであると思います。

毎日新聞社の 2019 年の調査によると、小学生が１か月あたりに読む本の平均は約 11 冊。絵本などもカウントに入っており、大人にとっての読書と同じようには考えられませんが、意外に多く感じられるのではないでしょうか。

ところが、１か月で１冊も本を読んでいない子どもの割合は中学生で約 12%、高校生ではなんと約 55%にも及んでいます。小学生のうちに、もっと本に触れるよさを感じたり読書を習慣とできていたりすれば、この数字は変わってくるのではないでしょうか。

芹が谷南小学校の図書館には７千冊以上の本があり、学校司書の川口先生や図書委員会、装飾ボランティアのみなさんが環境の整備をしてくださっています。また、ボランティアのみなさんによる読み聞かせも予定されています。さらに、国語を中心に、授業でも学年に応じた読書指導を進めてまいります。

１冊の本との出会いが、心に大きく残ることもあります。ご家庭でも、お声掛けいただけましたら幸いです。